

学校名	佐賀県立嬉野高等学校
-----	------------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要 **新嬉野高校は塩田校舎と嬉野校舎からなる校舎制の高校であり、地域に期待され活気に満ちた唯一無二の学校づくりが求められる。そのためには両校舎の教職員の連携・協力体制の構築がより一層必要である。両校舎ともに今までの成果も十分あるが、それぞれ課題もあり、克服していかなければならない。**

2 学校教育目標 **校訓である「躍動」「錬磨」「敬愛」の精神を生かして、専門教育を通した「人づくり」教育を行い、社会で生き抜くために必要な学力と敬う心を育み、志をもって社会に貢献できる高い専門性を有した生徒を育成する。**

- 3 本年度の重点目標
- 1 進路目標の早期確立を図り、生徒全員の進路実現を目指す。
 - 2 専門的知識・技能を習得させ、将来のスペシャリストたる生徒を育成する。
 - 3 わかる授業、力がつく授業を実施し、教材研究や指導の工夫・改善を行い、確かな学力の定着を目指す。
 - 4 基本的生活習慣の確立と共に、敬愛の心を育み、調和のとれた生徒を育成する。
 - 5 「校舎制による円滑な学校運営」については、様々な取り組みを通して「独自性」と「一体感」の両面をアピールしながら、円滑な学校運営を図り、地域の期待に応えられる開かれた学校をつくる。
 - 6 今年度3年目を迎え集大成の年度となる「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」については、様々な行事への参加を通し、地域に根付いた学校づくりを進める。

4 重点取組内容・成果指標 **5 最終評価**

(1)共通評価項目				最終評価			学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		
●学力の向上	○基礎学力の向上	○家庭学習時間の調査を行い、毎日の家庭学習の充実を目指す。 ○生徒アンケートにより、わかる授業実施率を80%以上を目指す。	・定期的な家庭生活の記録調査を実施する。 ・わかる授業の実践のための、教師の日々の授業の工夫・改善に努める。	A	・授業に関する生徒対象のアンケートで、肯定的(授業満足度)に回答した生徒約90%。 ・両校舎ともに朝の小テスト及び事後指導を実施しており、これにより家庭学習の習慣化がなされ、取り組みも意欲的であった。また、年度末には成績優秀者の表彰を行い、生徒のやる気を喚起した。	A	・保護者の立場としては、小テストの実施は大変ありがたい。生徒の基礎力向上と学習意欲の醸成に寄与している。	
	○探究心の向上	○専門的教科で資格指導を行い、昨年度合格率比10%アップを目指す。	・各専門教科で積極的に資格指導に努める。 ・昨年度を振り返り、教科で課題を共有し、指導を行う。	A	・第二種電気工事士(1年次)が今年度15名、同じく第一種(2年次)が今年度2名と、早い時期から資格取得に対する積極的な取り組みができた。また、3年次は様々な資格取得に積極的に取り組んだ。 ・商業関係検定では、(2年次)全商情報処理検定(ビジネス情報(エクスセル)2級取得者が前年度より倍増、(3年次)全商ビジネスコミュニケーション合格者が前年度の4倍増と健闘したが、全体として1級取得者数がなかなか伸びなかった点が反省点である。 ・介護福祉士国家試験を全員受験し、自己採点では17名全員が合格点をとることができた。	A	・難易度の高い資格に複数合格しており、評価できる。今後も積極的に挑戦させて欲しい。 ・機械技能資格(技能士)の取得者が少ないようだ。今後の取組について検討してもらいたい。	
	○ICT機器を活用した授業の実施	○電子黒板、学習用パソコンの教育活動内での利用率65~70%を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・災害、感染症対応に備え、リモート授業の実践に取り組む。	・ICT機器の活用に関する職員対象のアンケートで、約87%が積極的に活用していると回答。 ・オンライン授業について、緊急対応ができる体制を整えた。	B	・ICTスキルは未来を担う若い人たちの必須スキルである。今後も体制づくりに努めて欲しい。	B	・ICTスキルは未来を担う若い人たちの必須スキルである。今後も体制づくりに努めて欲しい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員90%以上を目指す。	・人権・同和教育講演会を実施する。 ・「情報」LHRにおいて情報モラル教育、道徳保障・人権教育を実施する。	A	・本校の道徳教育、人権・同和教育の方針に基づき授業ができたと回答した職員96%。 ・「情報」LHRにおいて情報モラル教育、道徳保障に関するLHRについては、更に異文化理解についての講話を実施することができた。	A	・次年度も今年度同様「心の教育」はぜひ重視して欲しい。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていたと回答した教員90%以上を目指す。	・いじめの認知・寛知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・いじめ防止や事後処理に対して、組織的な対応ができていたと回答した職員が97%。 ・塩田校舎で1件、嬉野校舎で2件のいじめ認知があったが、すべて解消した。職員研修は予定通り実施済。	A	・いじめについては早期対応、きめ細かい対応ができていと思う。 ・いじめは社会問題にもなっている。次年度もいじめ問題について注視する必要がある。	
●健康・体づくり	○ふると佐賀への思いを醸成するための教育活動	○「佐賀県に誇りと愛着を感じる・どちからかとうとを感じる」と回答した生徒90%以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。	B	・両校舎ともに「さが語り」を活用しての授業を行った。アンケートでは佐賀県に誇りと愛着を感じる生徒は90%(塩田)、86%(嬉野)であった。今後、さらに魅力のある郷土を伝えていく取り組みを行う。	B	・年間を通した計画的な指導が必要である。 ・一部の生徒の地域体験活動等を全校生徒に還元できれば良い。	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上を目指す。 ○朝食をとって登校する生徒90%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底させる。	A	・保健だよりに関しては定期的な発行ができ、校内外に発信することができた。 ・健康管理に関しては、担任による毎朝の健康観察、生徒個人による健康チェックを年間を通して実施することができ、感染者発生時に活用することができた。朝食及び健康管理に関する生徒アンケートで、肯定的な回答が約93%。地域の協力で、1年生に食育指導を行うことができた。今後も食育だより(学期に1回)で食事の大切さを伝えていく。	A	・食育指導において、地域の力を活かすことは良いことである。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○健康の保持増進のための体力向上	○健康・体づくり推進プランを実施して、健康保持増進、体力の向上を目指す。新体力テストで各個人が5%得点アップにつなげる。	・新体力テスト実施する。 ・部活動加入率85%(塩田校舎)、75%(嬉野校舎)を目指す。	A	・新型コロナウイルス等の感染症対策を取りながら、運動に親しむ場面を設定し、生徒が積極的に活動に取り組むことができた。また、新体力テストの結果を参考にしながら、授業や部活動を通して、体力の維持・向上を図ることができた。 ・部活動加入率91.3%(塩田校舎)、89.2%(嬉野校舎)であり、来年度以降も部活動加入を勧めていきたい。	A	・部活動を経験した生徒は、体力があり協調性も養われている者が多く、入社後もタフである。次年度も部活動に多くの生徒が加わるようにして欲しい。 ・男女ソフトテニス部をはじめ、他にも野球部、サッカー部など活躍している部活動があり、今後も頑張ってもらいたい。	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を守り(1か月につき45時間、1年につき360時間)。	・定時退勤日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・部活動休業日の設定。	A	・会議の書面開催を取り入れるなど業務の効率化を推進した。また、年度当初は時間外在校時間が目標数値を超える教職員もいたが、各部活動における複数顧問による指導の分担を図るなど、業務量の適切な管理と指導を行うことにより、9月以降は0名となった。ただ、一部の職員に若干の時間外勤務が見受けられ、今後も引き続きライフ・ワークバランスに係る指導を続けていきたい。	A	・時間外業務は昨年度と比較すると減っているが、まだ十分とは言えない。 ・熱意のある先生方の意欲を削ぐことはできないが、少しずつ努力して欲しい。	
●魅力と活力ある高校づくり	○学校行事の精選と効率的運営	○講演会等の行事の精選を行う。 ○従前の行事の偏りをなくすため両校舎で実施する行事の検討を継続して行う。	・合同開催できる行事を2つ以上実施する。 ・あらかじめ、主担当で行事の打ち合わせを行い、計画的に実施できるよう図る。	A	・高校入試、卒業式、入学予定者説明会等、担当間の連携をとり計画的な業務遂行ができた。校舎間オンライン配信、オンデマンド配信をしながら、新型コロナウイルス感染症対策等を図り、学校行事を滞りなく進めることができた。文化祭においては、嬉野校舎へ塩田校舎の生徒会役員が参加するなど、交流の第一歩を踏み出すことができた。今後も会議を重ね、令和4年度の合同行事の検討をより一層進めていきたい。	A	・今年度もコロナ禍の中、行事の縮小や中止が相次いだ。合同行事の計画・運営については、次年度も引き続き検討して欲しい。 ・生徒数が少なく、思うように活動できていないようである。特に、嬉野校舎の生徒数を考えると、統合した方がよいのではないか。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価			学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価		
○進路実現100%	○生徒の希望進路への実現	○キャリア教育の充実のための校外研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・学校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。	B	・コロナ禍で2年生インターンシップは中止、3年生の長期インターンシップは期間短縮で実施した。また、進路指導に係る各種セミナー、説明会などコロナ対策を講じた上で実施した。 ・就職・進学指導について96%が肯定的評価(保護者)。しかし、働くことの意義や自分の進路を考えているかについては、19%の職員が不十分としている。	A	・先生方の取組や最終的な生徒の進路先を見ると、大健闘だと思う。 ・保護者も含めて地元企業や地元の進学先を知ることが大切だと思う。	
○身だしなみ指導とマナーアップ	○社会人として必要な身だしなみ指導推進	○すべての授業、教育活動で身だしなみ・挨拶指導を実施する。	・朝の挨拶指導を定期的に行う。 ・授業前の身だしなみチェック、挨拶指導の推奨。	B	・朝の挨拶、服装指導に徹底して取り組んだ。生徒・保護者は95%がルールを守れていると回答。職員は15%が守れていないと回答し、指導が行き届いていない部分がある。次年度の改善を要する。	B	・生徒はよく挨拶をしてくれる。服装も乱れているとは思わない。	
○校舎制による円滑な学校運営	○各校舎間の連携	○分掌業務や部活動等で、連携がとれたと回答した職員80%以上を目指す。	・合同会議やワーキンググループにより、職員間で合意形成・共通理解を図る。 ・学校行事や部活動など両校舎の一体感を醸成する活動を合同で行う。	A	・修学旅行準備や高校入試業務等、協働で行うことができた。また、両校舎間の電話内線化など、環境整備も前進している。 ・今後、さらなる校舎間連携のため、学校企画会議を行い、職員の意識改革、両校舎合同の協議、取り組みを検討している。	A	・地域資源として今後も継続できる環境を整えていくためには、統合について考える時期が目の前に来ていると思う。	
○魅力と活力ある高校づくり	○保護者や地域の方の積極的参加	○本年度については、PTA総会の参加率は委任状を含め、70%以上を目指す。	・書面議決によるPTA総会の事前連絡および回答提出依頼を文書、スクールニュース等で行う。 ・授業参観日の積極的参加を促す。	A	・PTA総会は書面議決形式で実施したが、校内マラソン大会では、保護者の協力を得て実施することができた。 ・授業参観は実施できなかったが、学校新聞等については充実した内容になり、学校生活の様子を保護者へ地域に十分に伝えることができた。	A	・PTAにはできることを最大限してもらっている様子である。 ・学校新聞等も評価できる。	
	○地域とつながる高校魅力づくり(県指定)	○地域との連携事業を各学科、系列で実施する。	・各学科、系列担当で今までの取り組みを集約し、体系化する。 ・地域との連携、新規の取り組みにつながる事業を検討する。	A	・嬉野校舎では、県の指定を受け、「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」最終年として積極的に取り組んだ。生徒は、市役所の各部署の方々と話し合いを重ねながら、地域(商店街等)に積極的に出向き、有意義な活動ができた。特に、10月30日(土)「うれしの商店街まちおそび人生ゲーム」では全校生徒並びに全教職員で取り組み、地元の活性化に貢献できた。 ・塩田校舎では、嬉野温泉駅前にカウントダウンボード製作を嬉野市から依頼され、取り組んだ。	A	・地域に根付いた活動は両校舎とも大変評価できる。 ・今後も地域とのつながりを絶やさず活動をして欲しい。 ・遠くからも生徒は来ているので、学校のPRはできているのではないかと。	

5 総合評価・次年度への展望

●…県共通 ○…学校独自 ●…志を高める教育

・「学力向上」については、概ね目標を達成し高評価である。次年度も魅力ある授業づくりにつとめ、継続的に朝の小テストを実施していく。また、資格取得についても、早期からの取組も含め工夫しながら積極的に挑戦させたい。 ・「心の教育」について、いじめ対応は今後も重要である。生徒の観察やアンケートの実施により、未然防止、早期発見、即時対応が求められる。 ・「健康・体づくり」は高評価であった。部活動の加入について、その意義も含めて次年度も勧奨していく。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、「ワーク・ライフバランス」に関する管理職からの呼びかけの効果も出てきており、今後もさらなる業務の見直しや効率化を図ってきたい。 ・学校独自評価項目の「校舎制による円滑な学校運営」については、依然として解決すべき様々な課題があるが、学校企画会議等を通して、合同行事等を増やしていきたい。 ICT機器を活用したオンライン行事など、徐々に慣れてきており、今後もより効果的な方を講じていきたい。 ・「魅力と活力ある高校づくり」の「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」については最終年度を迎えたが、「まちおそび人生ゲーム」を軸に積極的に取り組むことができ、地元商店街の活性化に大いに貢献できた。プロジェクト終了後も継続できる仕組みづくりに取り組まなければならない。